25. 突発性難聴に対する高気圧酸素療法と星状神経節ブロックの併用（第3報）

菅野　倍志*　後藤　文夫*　渡辺　久志*
木谷　泰治*　藤田　達士*

突発性難聴に対する治療法は，その原因が不明であるため種々[1)2)3)]行なわれているが，現在，代謝循環を目的とした治療法が主流をなしている．早期治療例に対する治療成績では好結果が報告されている．しかし治療開始が2週以降の陳旧例に対する成績は極めて悪いのが現状のようである．我々は昭和48年より，星状神経節ブロックと高気圧酸素療法の併用により，早期治療例はもとより，2週以降の陳旧例にも好成績をおさめている[4)]．

治療方法

麻酔科外来において，0.25%マーカイン(LAC) 6～8 mℓに $VitB_1$ 20 mgと $VitB_{12}$ 1000 γを混入した薬剤により，星状神経節ブロックを行い，30分間安静仰臥位の後、2.4 ATA空気加圧の高気圧治療室において，60分間BLBマスクにて15～20 ℓ／minの酸素を投与した．この治療法を連日行ない，20回を1クールとした．1クール終了時点においてもなお聴力の回復が持続していると思われる症例には，さらに10回追加治療した．

治療成績

診断基準及び治療効果の判定は厚生省の突発性難聴研究班による判定規準に従った．昭和48年より本院耳鼻科において突発性難聴と診断された52症例の治療成績は表1に示すごとく，治癒5例，著明回復9例，回復23例で71%に効果を認めた．治療開始時期別では、1週以内，2週以内の早期治療例では，それぞれ88%，86%の回復を示している（表2）．なお15日から30日以内の症例でも85%の回復を認めている．1ケ月以降，3ケ月以内の治療開始の遅れた16例にも，著明回復1例を含む6例に効果を認めた．前庭症状の有無と治療効果の関係では，1ケ月以内に治療を開始した前庭症状を有する症例の回復率は85%であるが，治癒，著明回復共にみられず，幾分，治療効果に影響がみられるようだ．年令別では40才台にpeakがあり，治療成績は30才未満の症例に良い結果が得られた．さらに30才未満の若年層においては，治療開始が2ケ月以降と大幅に遅れた症例にも効果を認めた．

以上のように本併用療法が治療開始期間を2週から1ケ月以内までの成績を2週以内の早期治療例と差がないものにし，さらに1ケ月以降の陳旧例に対しても好成績をあげ，本治療法が有効な方法と考えられる．

文　献

1) Appaix A. et al.: Rev. Laryngol. Oto. Rhinol. 91：951～972，1970.
2) 柳田則之，他：突発性難聴に対する高気圧酸素療法．耳喉．45：539～551，1973.
3) 森満　保，他：アミゾトリゾアートが奏功した突発性難聴症例．耳鼻と臨床．20：59，1974.
4) 後藤文夫，他：突発性難聴の治療．耳喉．49：147～351，1976.

* 群馬大学医学部麻酔学教室

表1　治　療　成　績

治　癒	5	9.6 %	71.2%
著明回復	9	17.3 %	
回　復	23	44.2 %	
不　変	15	28.8 %	
計	52		

表2　発症より治療開始までの期間と予後

	1～7日	8～14	15～30	31～60	61日～	計
治　癒	2	2	1	0	0	5
著明回復	3	4	1	0	1	9
回　復	3	6	9	4	1	23
不　変	1	2	2	7	3	15
計	9	14	13	11	5	52